

# 絆

親子二代以上にわたり会社を経営されている皆さま。  
先代・当代経営者の方、さんしん先代担当職員・現担当職員の会話から  
親子、社員、地域、また三島信用金庫との絆に迫ります。



【Part 1】

深澤 好正さん  
深澤電工株式会社 代表取締役社長

【Part 2】

杉山 博彦さん  
株式会社杉山製茶工場 代表取締役

【Part 3】

青木 喜代司さん  
青木興業株式会社 代表取締役

強行派の初代から理論派の二代目へ  
そして、家業から企業へ

大村：深澤電工さんは、現在、電子制御機器の生産を行っています。創業当時は長泉の下土狩で旋盤機械加工をされていたんですよ。

社長：はい、昭和39年に先代が親族3〜4人ではじめた会社で深澤鉄工所といっていました。当時は個人事業だったと思いますが、ねじをつけたり、ハンダ付けをしたり、加工賃で収入を得ていました。いわゆる、労働集約的な仕事だったので、不況になるとどうしようもない。そんなとき、立石電機（現オムロン）さんの三島事業所から話があり、近所の人を集めて電子制御盤の製造をはじめよう。私が入社した32年前に、一部の加工作業用に機械を入れ自動化したことで立石電機さんの仕事がしつかり受けられるようになりました。

大村：先代は、どんな方だったのでしょうか。

社長：頑固で、男気質でした。黒でも白にしてしまうほど、意志の強い人でした。自分が正しいと思ったら、他の人が何を言おうが突っ走る人、いまではなかなかいませぬ。あの時は、強情で少しは人の意見を聞いてほしいと思っただけですが、いま自分が同じようなことをやっています。

取締役：娘の私からみて、実質的に現場の仕事を支えていたのは、先代である父ではなく母でした。ときには夜中まで、休日も働いていたので家事もできない。働き者の母がいたから、先代は好きなこ

## この先も三島信用金庫とともに 社員100人で年商10億円の会社をめざす

【Part 1】

深澤電工株式会社 × 三島信用金庫



深澤電工株式会社 代表取締役社長 深澤 好正さん  
深澤電工株式会社 取締役 深澤 優子さん  
三島信用金庫 下土狩支店 大村 浩之

とができたと思います。先代は、良いか、悪いかはつきりして、本当によく怒鳴られました。私は、先代と現社長の間に入って、それはもう苦労しました。ただ、昨年8月に亡くなったのですが、それまでの10年間はとても穏やかな余生だったといえます。会社がここまでになって、安心したのではないのでしょうか。病気がちでしたが、会社のことをいうとピンとしていました。社長以外にも町会議員の顔も持っていました。議員を16年間務めた実績が認められ、旭日単光章をいただきました。大村：先代は町会議長まで務められたと聞いています。地域貢献への功績は大きかったのではないのでしょうか。では、好正社長に交代したのは、どのタイミングでしたか。社長：町議が経営者を兼務するのはよくないということもあり、婿である私に交代しました。自分でやる以上は、先代に頼らず独立したカタチでやりたいと考えていたら「資金もなく何ができる」とよくいわれました。当時は、土地も建物も先代の所有で、会社が先代に家賃を払っていたのです。本社をいまの場所に移してから土地建物をすべて会社の名義にしたのは、家業ではなく企業にしたいという私の意識の現れです。人の歩みに例えると、会社を生んだのが父と母で、育ての親が立石電機さんといつていいかもしれません。いまは小学校6年生くらいに成長できたでしょうか、はやく中学3年生になって親離れして自立できる企業にしたい。100人で年商10億円の会社を目指しています。



### しょうがい者の社員が技能五輪で日本一 年商3兆円企業に勝った

大村：深澤電工さんはしょうがい者の採用に積極的です。工場内でイキイキ働いているのがとても印象的で、企業としての懐の広さを感じます。

社長：創業当時は、しょうがい者を持つていた叔父もいたことがきっかけだと思えます。いまでは、しょうがい者の方が8名（身体5名、知的3名）働いています。やる気がある人は来なさいというのが先代の方針でしたから、多いときは18名もいましたね。しょうがい者だけでなく、高齢者採用も積極的にやってきました。

しかも、ちゃんと戦力として働いていたのが当社の姿勢です。その証として、当社の社員が平成20年に全国障害者技能競技大会（アビリンピック）で日本一になりました。ここまで来るのに3年かかりました。17年大会で銅メダル、18年大会では銀、そして念願の金をとったときは、うれしかったですね。毎年優勝候補のデーンソーさんを超えようと頑張つて、ついに年商5億円の企業が3兆円の企業に勝ったわけです。競技大会でも、資金と教育制度が整う大手メーカーがやはり強い。中小企業でも頑張れば、大企業に勝てることを示したかったんです。もともと中小でしょうがい者を採用しているところは少ないですから、この金メダルは大きな意味を持っています。

高齢者も、現在6名採用、72歳が2人いて、定年のない会社を目指しています。彼らは、確かな戦力になるんですよ。時

間は5時間で週4日、いきいきして働いていて、定着率はいいです。その点で、私たちはしょうがい者ではなく「ちよつと身体わるい人」で、高齢者は「ちよつと時間の多い人」と呼んでいます。

大村：県の経営革新承認を受けた事業、「5S活動で得たノウハウを活用し、しょうがい者等を雇用する清掃サービスの提供」についてお聞かせください。

社長：5Sとは、「整理、整頓、清掃、清潔、躰（しつけ）」のこと。しょうがい者を持つた方と高齢者がともに働く職場を作りたいと「天使のお掃除」というトイレクリーニングサービスをこれから立ち上げる場所です。

当社は、もともと掃除を徹底していて、朝、昼、晩3回掃除をやります。素手でトイレをさわってもキレイだし、便器の上におにぎりを置いても食べられません。私たちは、「ぴかぴか」「おもてなし」「そうじ」で日本一になりたい。

2年前にリーマンショックで受注が減りましたが、休業もしましたが、人きりはしま

せんでした。逆に、しょうがい者の方の行き場がなくて10人受け入れました。でも仕事がない、当社の場合は誰でも手が空いたらすぐ掃除なんです。ですから、掃除のノウハウは普段から身につけていて、その技術を事業として活かそうと考えました。

離れて知った、三島信用金庫との信頼関係  
いまでは揺るぎないものに

大村：深澤電工さんと当金庫は、長いおつきあいをさせていただいています。いまの本社工場の建物は、当金庫で融資させていただきました。

社長：年商3億円の会社が2億5千万円も借りることができたのは、三信さんのおかげです。三信さんのおつきあいは先代からで、いまでは揺るぎないものになっています。創業47年にもなりますが、いろんな金融機関さんが来られますが、丁寧にお断りします。新規取り引きし

ようとする金融機関は、金利などの提案を持ちかけますが、金利ばかりじゃない心がつながっていないなければつきあえないです。目先でものを買うのではない、長い目で見て買うのですから、信用が第一です。

取締役：実は、10年以上前にある地銀さんに浮気をしたことがあるんです。私たちが若く、地銀のブランド力に惹かれ、営業攻勢が積極的だったこともあり、取引をしたこともありました。ところが、取引がはじまったらばったり来なくなつて、これはうちのやり方ではないと、こちらから三信さんをお願いして、もう一度おつきあいをさせてほしいと頭を下げました。それから、もう三信さんだけです。

年の信用で、いろんなお願いもできるし自分たちのことは何でもわかつてくれるので、本当に安心です。

大村：深澤電工さんは、社長のきつちりした性格からもわかるように、時間も、事務処理もしっかりされていて、私たちが見習うことが多くあります。経営発表会にも呼んでいただき、前年度の結果、今年の方針を発表する場で勉強させていただいています。その中で、当金庫が役立つところをさがすのですが、経営内容が優良で、なかなか出る幕がないですね。「地域のホームドクター」を目指していますので、これからもじっくり話を聞いて、問診して、深澤電工さんのお役に立ちたいと思います。

社長：本当に、三信さんが来ていただくに安心するんです。だからもっと、往診してください。

5S活動の一環（文房具の整理整頓風景）



### 深澤電工株式会社

昭和37年、深澤鉄工所として創業。  
昭和39年、深澤電工として法人化。  
電子制御装置の製造、プリント基板の実装組立を主とし、近年では派遣業務、分析機器の分野にも挑戦。  
従業員教育、人材育成が各方面より評価を受け、また、身障者雇用に早くから取り組み、県の経営革新承認を取得している。

静岡県駿東郡長泉町桜堤3丁目6番14号  
Tel.055-988-5131  
http://www.fd-kk.com